

# 富山市定例市長記者会見（令和5年2月1日）

## ■冒頭

市長

皆さまこんにちは。報道関係の皆さまには、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。それでは、定例記者会見を始めさせていただきます。

まず（演台にあるグラス）富山アイコンックについてです。富山の水道水（ペットボトル「とやまの水」）も（隣に）あります。富山アイコンックは、富山ガラスの日常使いできるラグジュアリー版として売り出しています。このほかにも富山湾のブルーやヒスイ海岸の翡翠<sup>ひすい</sup>などをモチーフにした色、全部で5色ほどありますが、商品のラインナップも充実していますので、ぜひホームページ等をご覧になって、チェックしていただければと思います。

これ（「とやまの水」）はモンドセレクション10年連続金賞、最高金賞を7回受賞しています。おいしい水道水ですので喉が渴いたら、これ（富山アイコンックのグラス）で飲んでみたいと思います。富山市のPRの一つであります。

それでは早速本題に入っていきたいと思います。

## ■富山市スマートシティ推進ビジョンの啓発・PR事業について

市長

本市は、昨年11月に産学官民がスマートシティの方向性を共有し行動するための指針として「富山市スマートシティ推進ビジョン」を策定したところであります。本ビジョンの策定趣旨や内容を広く市民や企業の皆さまにご理解いただくとともに、ビジョンの実現に向けた取組に主体的に参画していただく機運を醸成することを目的として、啓発、PRを実施いたします。

はじめに、本市のスマートシティのキャッチコピーは、「まちの『しんか』  
できる、ひろがる、デジタル」です。また、ロゴマークはこちらのデザ  
インとなっております。

キャッチコピーには、これまでのコンパクトシティ政策をスマートシテ  
ィ政策で補完、融合させることにより、これまでできなかったことがデジ  
タルの技術を活用してできるようになり、市民生活の質や利便性が向上し、  
郊外部や中山間地域など市域のどこに住んでいても不便を感じることもな  
く、安全、安心で誰もが暮らしやすさを感じられるまちとなるよう深化さ  
せていきたい、という想いが込められています。

また、ロゴマークは本ビジョンが目指すべきありたいまちの姿、これは  
三つのまちづくりの目標と呼んでいます、これを表現しています。

具体的には、水色の円は「誰一人取り残されることなく便利で安心して  
暮らせるまち」を表しています。オレンジの円は市内 14 の地域生活拠点  
を表しており「地域の宝を未来へつなぐ地域づくり・人づくりのまち」を、  
そして、外側の青い輪郭線が「互いの地域を尊重し支えあう一体感のある  
持続可能なまち」を、それぞれ表現しております。全体としては、この三  
つが合わさり、まちづくりの目標が達成された状態の富山市を表現してい  
ます。外郭線の形が富山市の形にもなっております。

このように、市民の皆さまにとって分かりやすく親しみやすいキャッチ  
コピーやロゴマークを活用しながら、ビジョンの啓発や P R に努めてまい  
りたいと考えております。

次に、先ほど紹介したキャッチコピーやロゴマークを活用し、ビジョン  
の考え方や内容を分かりやすく紹介するパンフレット及び動画等の P R  
ツールを制作いたします。現在制作中の動画の一部をご紹介します。

※ P R 動画の再生（約 60 秒）

これらの P R ツールを活用した啓発、P R イベントを市内 4 カ所の商業  
施設において開催いたします。

本イベントではビジョンの考え方や内容を分かり易く紹介するパネルの展示やPR冊子の配布、動画の放映のほか、デジタル技術を身近に感じていただけるようなVR体験、ドローン操作やお子さま向けのプログラミング教室など、体験型のイベントも予定しておりますので、ぜひ多くの皆さまにご来場いただきたいと思います。

イベントの詳細につきましては、お手元のイベントチラシにてご確認ください。

なお、マルト及びファボーレで実施予定のトークイベントにつきましては、私も登壇させていただきます。

また、来年度には、企業や大学等有する技術やノウハウを活用し、地域課題の解決に資する有効なスマートシティ関連サービスを創出することを目的に、企業や団体、学術機関等で構成する富山市スマートシティ推進プラットフォームを新たに設置いたします。プラットフォームに加入していただく企業や大学等に対しましても、ビジョンの共有を図り、スマートシティ政策を推進してまいりたいと考えております。

## ■富山市ホームページのリニューアルについて

市長

現在のホームページは、平成22年度の構築から10年以上が経過するなかで、情報量が増加し、適切な分類分けやアクセシビリティへの対応が不十分になってきています。また、サーバを市役所本庁舎内に設置していることから、災害や停電時にサーバが停止してしまったときには、ホームページによる情報発信ができないこととなります。

これらの課題を解消するために、今年度、富山市ホームページ全体のリニューアルを実施いたします。

公開日は、令和5年2月15日（水曜）です。

リニューアル後のホームページは、最も注目されるトップページの上部に「立山あおぐ特等席。富山市」を象徴する立山連峰等の写真を配置し、本市の印象を深めるデザインとなっています。

そのほか、閲覧される方が情報を探しやすくなるように検索専用ページを創設するとともに、行政全般のお問い合わせに自動応答するAIチャットボットや、引っ越しや結婚、出産などの際に、簡単な質問に答えるだけで必要となる手続きをご案内する手続きコンシェルジュを導入しました。

なお、今回のリニューアルに合わせて、ホームページのURLが変更になります。一定期間、古いページにアクセスされた方は新しいページに自動的に転送されますが、改めて広報とやま等で周知を図ってまいります。

富山市ホームページは、市民の皆さまとの接点であり、行政からの情報を伝える重要なツールの一つです。リニューアル後も、見やすく、わかりやすく、必要な情報にたどり着きやすいホームページとなるよう努めるとともに、伝わる記事ページの作成を心掛け、情報の発信力を高めてまいりたいと考えております。

## ■ G 7 富山・金沢教育大臣会合カウントダウンボードの設置について

市長

ご承知のとおり、令和5年5月12日から15日までの4日間、富山県と石川県でG7富山・金沢教育大臣会合が開催されます。

本日は会合までちょうど100日前ということで、県庁でも本日からカウントダウンボードを設置されると伺っておりますが、本市におきましても、市民の皆さまへの周知と機運醸成のため、市役所庁舎内にカウントダウンボードを設置することといたしました。

ボードにつきましては、この記者会見終了後に市役所1階の総合案内付近に設置いたします。

いずれにいたしましても、開催まであと100日と迫ってまいりました。引き続き各部局が相互に連携を取りながら、また、富山県、石川県、金沢市とも連携を取りながら準備を進めてまいりたいと考えております。

## ■ 防災啓発チラシ等の配布について

市長

本市では、地震や洪水等の災害の発生に備え、食料の備蓄を計画的に進めているところでありますが、使用されることのないまま賞味期限が近づいたものについては、フードロス削減の観点から、これまでイベント等で市民の皆さまにお配りするなどの対応をしております。

このたび、こうした取組を単なるフードロス対策という視点だけではなく、市民の皆さまの防災意識の向上や災害への備えを進めていただく機会として積極的に活用するために、お手元にお配りした防災啓発チラシと配布用の食料を入れるケースを作成いたしました。

災害対策の基本は、自分の命は自分で守ることです。そのためには、市民の皆さま一人ひとりが防災について関心を持ち、日ごろから災害時への備えをしておくことが重要です。

これらのチラシやケースは、NPO法人富山県防災士会にご協力をいただき作成したものであり、日ごろから備えておくべき非常持ち出し品や家庭備蓄品に関する情報を記載しているほか、緊急連絡先や自身に必要なものを書き込むことができるようになっております。

今後、防災に関する講習会やイベント会場等においてこれらをお配りすることで、ご家庭の目につきやすい場所に貼っていただいたり、防災について家族で話し合う機会を作っていただくなど、市民の防災意識の向上に役立てていきたいと考えております。

## ■ 出産・子育て応援事業について

市長

国の令和4年度第2次補正予算において、全ての妊婦、子育て家庭が安心して出産、子育てができる環境整備に向け、出産・子育て応援交付金が

創設されました。

本市におきましては、従来より妊娠期からの切れ目ない子育て支援に取り組んできたところではありますが、この交付金を活用し、出産、育児等の見通しを立てるための面談や継続的な情報提供を行うことを通じて、必要な支援につなぐ伴走型相談支援の充実を図るとともに、妊娠届出時と出生届出後の妊産婦に対して経済的支援を実施します。

伴走型相談支援としましては、妊娠届出時、妊娠8カ月頃、出生届出後に面談を予定しています。

また、経済的支援としましては、妊娠届出後に、出産応援ギフトとして妊婦1人あたり5万円、出生届出後に、子育て応援ギフトとして子ども1人あたり5万円を給付します。

なお、事業開始日前に出産された方につきましては、出産応援ギフトと子育て応援ギフトを一括現金で支給いたします。

この事業の対象者は、本市に住民票があり、令和4年4月1日以降に出産された方になります。

事業開始は、令和5年3月1日を予定しています。事業開始前に出産され、対象となる方には、順次案内を送付いたします。

今後も引き続き、妊娠期から子育て期まで継続支援を充実し、安心して子育てができる環境づくりに努めてまいりたいと考えております。

## ■「富山映像大賞2023」作品募集について

市長

本市では、国内外から応募されたオリジナリティあふれる良質な映像芸術の魅力を、メディアを通して発信するとともに、まちなかの映画館や文化施設で、市民により身近に映像文化に触れる機会を提供し、まちなかの継続的な賑わい<sup>にぎ</sup>を創出することを目的に「富山映像大賞2023」を開催いたします。

つきましては、本日より作品募集を開始いたしますのでご案内します。

富山映像大賞として2回目となる今回は、新たに市民向けコースを新設しますので、気軽に映像制作に触れていただくことで、より多くの市民の皆さまに映像文化の素晴らしさを感じていただきたいと思います。

作品の募集期間は、本日2月1日（水曜）から5月31日（水曜）までの4カ月間となっております。応募資格については、市民向けコースには富山市在住などの条件はございますが、国籍、年齢などの制限は一切ありません。また応募も無料となっておりますので、多くの方に気軽に応募していただきたいと思います。

今回の公募テーマはプロフェッショナルコースが「いのち」、市民向けコースが「ファミリー」となっております。

応募作品は、テーマに沿ったものであればジャンルを問いませんが、5分以内の短編映像作品としております。

表彰につきましては、プロフェッショナルコースではグランプリが1点で副賞として賞金100万円、市民向けコースでは最優秀賞が1点で副賞5万円のほか、特別審査員賞、優秀賞などを設けております。

今後の主なスケジュールにつきましては、5月31日に募集を締め切り、6月上旬から8月上旬にかけて一次審査、8月下旬から9月中旬にかけて二次審査を行い、令和5年10月8日に、最終審査及び授賞式を行う予定としております。

なお、審査員としまして、審査員長には、富山市政策参与で東京藝術大学特任教授の伊東順二<sup>いとうじゅんじ</sup>氏のほか、富山市政策参与で日本映画監督協会理事長の本木克英<sup>もときかつひで</sup>氏や俳優の西村まさ彦<sup>にしむら ひこ</sup>氏など、映像分野で活躍される方々にお願いすることとしております。

広く国内外から数多くの作品が応募されることを大いに期待したいと思います。

---

## ■ 質疑応答

記者

藤井市長の選挙時のビジョンとして、「重要政策テーマ 繋がる未来！～連携日本一とやま」の中に「性別、人種などに関わらず多様性を認め合える社会の推進」を掲げられています。県では3月1日からパートナーシップ宣誓制度が導入される予定ですが、富山市として当事者が何か住民サービスを使えるよう検討されていることはありますか。

また、県の制度導入に関わらず、ジェンダー格差解消に向けて行う市の取り組みについて教えてください。

加えて、令和4年度の富山市の女性管理職割合は17.2%に留まっていますが、今後さらに増やす予定はありますか。

市長

本年度、県による市町村担当者説明会が3回開催されました。パートナーシップ宣誓制度の導入時期、パートナーシップ宣誓制度を先行導入している他県の事例の紹介や、県内各自治体においてどのような場面で制度の活用ができるかの検討結果について説明がありました。

これらを経て先日、県知事の記者会見、これは1月30日でありましたが、県内では制度の活用にあたって、公営住宅への入居申込並びに医療機関における病状説明を受けることなどについて、この制度を活用する旨の発表がありました。

本市といたしましては、活用場面の具体的内容について現在調整中ではありますが、今後、県が実施時期を明らかにされた際には、制度の周知に努め、そして適切に対応してまいりたいと考えております。

次に、ジェンダー格差解消に向けて、本市では、第2次富山市男女共同参画プラン後期実施計画を策定し、ジェンダー格差解消をはじめとする男女共同参画社会の実現に向けて、さまざまな事業に取り組んできているところです。

例えば、市民公募3人の編集委員が、年齢や性別など固定観念に縛られ



ることなく、自分らしく輝ける社会などをテーマに企画、編集した男女共同参画に関する情報誌「あいのかぜ」を発行し、町内会への回覧を行うほか、男女共同参画に関するイベントなどで配布しております。

また、昨年 11 月に開催した男女共同参画とやま市民フェスティバルでは、フリーアナウンサーの<sup>かさいしんすけ</sup>笠井信輔氏を講師に招き、子育て体験や家庭と仕事の両立を通して、お互いが支え合うことの大切さについて講演していただき、参加された皆さまからは大変ご好評をいただきました。

ジェンダー格差を解消するためには、性別に関わりなく一人ひとりの個性や能力を十分に発揮できることが重要であります。今後も市民の男女共同参画社会に対する意識がより一層深まるよう、啓発、イベントなどに努めてまいりたいと考えております。

また、本市では、女性職員の活躍を推進し、豊かで活力ある職場環境を実現するため、令和 2 年度から 5 年間を計画期間とする特定事業主行動計画後期計画において、管理的地位にある職員に占める女性職員の割合をおおむね 20 パーセントとする目標を設定しています。

令和 4 年 4 月 1 日現在、本市の女性管理職割合は 17.2%となっておりますが、係長以上の職員に占める女性職員の割合は、29.2%となっております。また、近年、本市の一般行政職の新規採用者に占める女性の割合が、50%を超える状況が続いております。このようなことから、今後、管理職に占める女性職員の割合が必然的に増えていくと認識しております。

いずれにしましても、今後とも意欲と能力のある職員については、男女の区別なく管理職等に積極的に登用するなど、職員一人ひとりが持てる力を十分に発揮し、活躍できる職場環境づくりに努め、市民福祉の向上と市政の更なる発展につなげてまいりたいと考えております。

また、何か政策を作る時には、あるいは市民の皆さまと相対して話をしたり、悩みを聞いたり、相談に乗る時には、やはり女性の持つ独特の抱擁力や優しさ、考え方など、例えば防災対策一つにしても女性の目線が入っ

ているということは非常に大事です。そのような面からも、今後リーダーシップを取っていただく女性がどんどん出てきて活躍していただける、そんな富山市を目指していきたいと考えております。

---

記者

先ほどのパートナーシップ宣誓制度に関連して伺います。この制度は市町村の自治体レベルで導入しているところもあると聞いています。基礎自治体、中核市として何か独自に制度を考えていますか。

市長

富山市での制度の導入も含めて議論を行ってきたところであります。ジェンダーフリー、あらゆる個性を認めていくということが大事であるということは私自身の考え方ですし、富山市も男女共同参画の立場から、従来からそのような考え方を持っております。

ただ、県が先行してパートナーシップ（宣誓）制度の導入を検討するということを発表されましたので、足並みをそろえていくことが大事であると考え、県の情報をいただきながら、富山市でも制度の設置の必要性も含めて検討してきたところであります。（その）結果、県で一つそのような制度があるのであれば、富山市でも窓口を設置するか（の検討も含めて）もちろん対応はさせていただきたいと思いますが、制度をすぐに導入というよりも、実際の窓口対応の充実（など）、県の制度と齟齬そごがないように努めてまいりたいと思います。

記者

市長は、（市）独自にという考えも、以前はお持ちだったと思いますが、今はその制度の必要性というのとはそれほど（感じておられないということでしょうか）。

市長

県は、先行して、具体的なことも先日の知事の記者会見で発表されましたので、同じようなことを二重に作る必要はないのではないかと考えています。県が行われる方向と一緒に方向で、そのような制度を作っても作ら

なくても、しっかりと対応していくことが大事だと思いますので、そのように対応していきたいと思っています。

---

記者

パートナーシップ宣誓制度について伺います。県は3月1日から宣誓可能になるということを発表しましたが、富山市としても3月1日から市営住宅や市立病院で家族同様の扱いができるというようなサービスを、時期を合わせて始められていくのか、考えをお聞かせください。

市長

時期ではありますが、なるべく同調したほうが良いと個人的には思っていますが、間に合うかどうかも含めて、庁内で議論を進めていきたいと思っています。まだ決定はしていません。

記者

パートナーシップ宣誓制度について、公営住宅と病院での対応にとどまるところがほとんどですが、自治体によっては、遺族への給付金や犯罪被害者への支援金なども、家族とみなし対応する自治体もあります。富山市も独自の対応をしていく考えはありますか。

市長

そういったところの調査も、今ほどご指摘いただいたとおりでありますので、県が行うことはまずしっかり対応するということが一つと、その他にできることがあれば議論を進めてまいりたいと思います。

まだ、県の定め以外に何かを行うということは一切決まっていますが、調査（研究）しながら、必要があれば進めてまいりたいと思います。

---

記者

出産・子育て応援事業について伺います。これは国の予算を使って行う事業ですか。

市長

そうです。国の制度です。

記者

その中で、何か富山市独自の部分はありますか。また、申請方法や面談の対応はどのようになるのか教えてください。

市長

申請者は、(主に)富山市に妊娠届を出された方です。富山市は伴走型支援を非常に大事にしていますので、その伴走型支援の一環として妊娠届の時に相談して、お互い意思疎通していただくところで支援金として1回(5万円を支給)、(妊娠)8カ月前後に伴走型(支援)の一環で1回(希望者に面談を行い)、出産されて出生届出後に(面談を行い)、出産の子育て支援金として5万円(支給する)ということです。届出と一緒に、育児相談なども含めて相談に乗りますので、そのような伴走型の支援をしっかりとするというサービスを、富山市としては充実させていきたいと思っています。

それと、やはり富山市に妊娠届や出生届を出していただいた方について、政府が補正予算で計上したものを速やかに給付したいという思いで現在に至っているところであり、それも大事(なこと)ですが、(市が)その都度、相談に乗っていくということは非常に大事なことだと思っています。妊婦さんや出産された後のお母さんは不安がたくさんありますので、そのような伴走型支援は非常に大事だと考えています。

=====

記者

パートナーシップ宣誓制度のことについて伺います。県では、公営住宅や公立病院において同性カップルの扱いなどについて対応されていくという方針ですが、公営住宅や公立病院での対応は、ある程度(市としても)対応されるという認識でよろしいでしょうか。

市長

まだ発表していませんが、そちらの部分は県と同調してやっていく方向

で議論しています。

記者

例えば、県では公営住宅での同性カップルは入居要件を満たさないためこれまで入居できなかったが、そういったことにも対応できる（ようになる）ということですが、同じ3月1日から（市でも）スタートすると考えてよろしいでしょうか。

市長

（対応を開始する）日はまだ（未定）ですが、それを可能にする方向で議論しています。

記者

そのほかは（今後）検討されるということでしょうか。

市長

そうです。

---

記者

今回の寒波で富山市から市民に対して節水の呼びかけがあり、今日、その要請は解除ということですが、改めて、市民の皆さんの節水への協力などに対して伝えたいメッセージがあればお聞かせください。

また、今後も寒波などが想定されると思いますが、同様の事態を招かないために考えがあればお聞かせください。

市長

まず冒頭に、今回の寒波により市内各所で漏水が発生して、特に市内では流杉浄水場の水位が急激に下がったということがありました。結果として断水に至るような危機的な状況に陥る一歩手前まで陥ったわけであり、そのことによって、事業所の皆さまや市民の皆さまに節水のお願いをしました。本当に皆さまに協力していただいて、おかげさまで今日ぐらいに（水位が）回復します。すべての水道（浄水場）が通常の状態に戻る

ということになります。この件に関して非常に感謝を申し上げます。

今後の対策としては、水道の場合はやはり凍結（防止）対策です。露出している管に、保温するような布やダンボール、テープを巻いて管を保護していただくということ、あるいは、鉛筆の芯ほどに細い水を夜間の特に冷え込む時間帯に出しておくなど、凍結防止対策を徹底していただきたいと考えています。

いずれにしましても、皆さまのご協力で事なきを得たので、ほっとしているところです。

#### 記者

久しぶりにまとまった雪が降りましたが、2年前の大雪以降、除雪体制の見直しなどを進めてこられた中で、今回の市の雪対応はどのように評価していらっしゃいますか。

#### 市長

おおむね除雪はうまくいったのではないかと考えております。

ただ、最初に降った時に、地域主導の除雪と行政主導の除雪の棲み分け（が分からなかったこと）で、除雪の出遅れや（どのタイミングで除雪に出ればよいのか）よくわからないという町内会からの問い合わせもあったようです。まずは地域の除雪力が大事だと思いますので、一定の積雪以上になれば市が主導で（除雪に）出ますので、それまで（市が主導で除雪に出るまで）は従来どおり町内（で）の除雪に努めていただきたいと思います。

これも、地域の皆さま、業者の皆さまの協力があって、（一時）圧雪にもなりましたが、2日ぐらいで圧雪も除去できましたので、うまく除雪できたのではないかと考えています。

---

#### 記者

今回から会見資料に新型コロナウイルス感染症関係の報告事項がなくなりましたが、その意図をお聞かせください。

市長

毎回、基本的な感染防止対策を徹底してくださいという呼びかけのために（報告を）していたんですが、まだ第8波の中にいますが、皆さまが気を付けて感染防止対策を徹底されるようになってきましたし、5回目のワクチン接種も進んでいますので、あえてここで発表することは今回からとりやめることにしました。

記者

（感染症法上の位置づけについて2類から）5類への引き下げが言われているからではなくて。

市長

そうではなくて、2類から5類に引き下げられた時点で、記者会見で（の報告を）取り下げるという考えもあったんですが、少し早めに通常モードに戻していこうという形で（とりやめました）。ただ、また感染が拡大してくれば、当然（感染防止対策の呼びかけや報告が）復活してくると思います。

記者

富山県の新田知事は会見で（感染防止対策に設置していた）パネルを外されましたが、パネルの設置は続けられるのでしょうか。

市長

パネルも頃合いを見計らって（外すことになる）と思います。

---

記者

マスクの着用について伺います。個々の判断でという政府の方針もありますが、大きなイベントである砺波市のチューリップフェアでは、国のガイドラインに沿って、今年は（屋外では）マスクなしでもいいということ、砺波市長が今日（の記者会見で）話されました。

例えば富山市ではチンドンコンクールが4月にあると思いますが、何かマスクの着用などについてメッセージや方針を富山市から出すことは考

えていらっしゃるでしょうか。

市長

それ（について）は、（まだ）内部で議論が進んでいませんので、国の方針が随時出てきていますので、それを受けて議論していきたいと思います。夏野（砺波）市長がチューリップフェアでそのような対応（をとる）と積極的におっしゃったということは、私たちから見ても一歩踏み出されたなというように歓迎すべきメッセージだと思います。富山市も独自に、マスクなしでもやっていけるのかどうか検討したいと思います。

記者

ニュアンスとしては、できるだけマスクなしでできる方法を探っていくというようなことですか。

市長

通常に近い形で（開催）できればベストだと思いますが、そうできるのかどうかを議論したいと思っています。

---

記者

先ほどの水道管の関係で1点お伺いします。（寒波による）漏水などの問題がありました。社会的なインフラの問題として水道管の老朽化の問題もありますが、そういった老朽化が背景にあったりするのでしょうか。もしあったとすれば何か対策は考えていらっしゃいますか。

市長

（漏水で）大きいのは、通常の住宅の外部に露出した管が破裂するなど、そういうところの漏水によって水位が下がることが非常に多いわけです。今回象徴的なのは空き家です。空き家で水道管が破裂して漏水しても、簡単にわからないので、町内会や民生児童委員の方などにも協力していただいて、1人暮らし（の住宅）や空き家などで漏水があれば報告していただきたいということで、かなりの件数を市民の皆さまから報告いただきました。そのことにも感謝申し上げたいと思います。



そういうところは、水道業者の皆さまや市の職員が、その住宅の元栓を閉めるという対応をしておりますので、老朽化と言えば老朽化なのかもしれませんが、そういう民間の部分の管での漏水による水位の低下というのが顕著であったということです。

今回、公共の部分の管は凍結による破裂や損傷はありませんでした。

でも、本当に空き家からの漏水というのは少くないんです。(配水量のピーク時には通常の許容量の 1.5 倍のペースで水がなくなっていましたので、その (配水量の増えた) 0.5 分というのは漏水ですよ。非常に市としても危機的な状況になったので、これはもう住民の皆さまに協力していただかないと防げない部分だと思います。

---

#### 記者

大相撲について伺います。初場所で朝乃山関が 14 勝 1 敗という非常に見事な成績で十両優勝されました。最終的に 2 月の番付発表を待たないと幕内に入るかどうか非常に微妙なところでもあります。今回の初場所を見られた感想と期待、それと人生の先輩としての激励を一言お願いします。

#### 市長

朝乃山に激励できるくらいできた人間ではありませんが、初場所を見ていて、ものすごく表情も良くて、体もでき上がっていて、四つ相撲も切れていましたので、心技体、充実しているんだなと頼もしく思っていました。技はもともとありますので、(番付が) 上に上がっても活躍できるような体と心になっているのではないかと (思います)。これからも期待したいと思います。

また、先輩としてのアドバイスではなく、これは朝乃山自身がいつも言っていることですが、やはり稽古しかないんですね。私たちにしてみれば勉強と言いますか、職員からレクチャーを受けたりして、中身について私も一生懸命勉強したり、そういうことの積み重ねしかないんですね。朝乃山自身も言っていますが、恩師の方やお父さんのことも (含めて)、残念 (なこと) や、ご不幸もありましたけど、そのような思いを全部背負ってやっ

ていますので、これからも自分に正直に、しっかりと前を向いて、一歩一歩上って行って、一番高みを目指していただきたいと思っています。



※発言内容を一部整理して掲載しています。・・・富山市広報課